

資料館等の 連絡先・開館情報

※詳細は各施設へお問合せください。

1 木曾山林資料館 (旧木曾山林高等学校)

住所：〒397-8567 長野県木曾郡木曾町新開4236
木曾青峰高校新開キャンパス 演習林管理棟
開館：4～11月 毎週土曜日
10:00～15:00
入館料：無料
連絡先：0264-22-2007
(開館日のみ)



2 御料館 (旧帝室林野局木曾支局庁舎)

住所：〒397-0001 長野県木曾町福島5471
開館：4月～10月は 9:00～17:00
11月～3月は10:00～16:00
休館日：月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)、
年末年始
入館料：無料
連絡先：0264-23-2070
木曾町生涯学習課



3 赤沢自然休養林森林資料館・森林鉄道記念館

住所：〒399-5607 長野県木曾郡上松町
小川入国有林 赤沢自然休養林園内
開館：4月下旬～11月上旬
入館料：無料
連絡先：0264-52-1133
(一社)上松町観光協会



4 大桑村歴史民俗資料館

住所：〒399-5501
長野県木曾郡大桑村大字殿1-58
開館：9:00～16:30
休館日：月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)
及び、12月～2月
入館料：大人300円、小人200円
連絡先：0264-55-1020
大桑村教育委員会



5 南木曾町博物館歴史資料館

住所：〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2190
開館：9:00～17:00
(入館受付：16:45まで)
入館料：大人800円 小人400円
連絡先：0264-57-3322



6 山の歴史館

住所：〒399-5301
長野県木曾郡南木曾町読書2941-5
休館日：水曜日、12月～3月
入館料：大人500円、中学生250円、
小学生以下無料
連絡先：0264-57-4166



木曾の歴史 林業の歴史

尾張藩時代

家康が子の義直に加封し、尾張領となる。江戸時代初期の城郭・城下町などの建設に伴う過大な木材需要は、木曾の森林資源を荒廃させていった。そこで尾張藩は1665年に留山制度を敷き、ヒノキをはじめとする「木曾五木」等の伐採を禁止した。この制度は、

1615
(元和元年)

家康時代

関ヶ原合戦後、徳川家康は、木曾義昌旧臣の山村道祐を木曾代官に任じて木曾の山・川支配をゆだね、江戸城などの建設に備えた。

1600
(慶長5年)

豊臣時代

豊臣秀吉は、それまでの木曾領主の木曾義昌を移封し、配下の石川光吉大山城主を代官として、木曾全域を自らの蔵入地(直轄地)として支配した。

1590
(天正18年)

官有林(官林)

「木一本、首ひとつ」と例えられるほど厳しいものだった。明治2年の版籍奉還により、それまで各藩が所有していた藩有林が明治政府により官有林に編入され、木曾の美林もほとんど全部が編入された。

1871
(明治4年)

御料林

木曾官林は皇室所有の御料林となり、明治23年には代々受け継がれるべき世伝御料林とされ、宮内省御料局(明治41年帝室林野管理局。大正13年帝室林野局と改称)の管理経営するところとなった。

1889
(明治22年)

国有林

昭和22年帝室財産の解体令により、他地方の御料林とともに国有林に移管され、林野庁の長野営林局管内の木曾各営林署の経営となった。

1947
(昭和22年)

林業遺産



日本森林学会が、学会100周年を契機に、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みとして2013年度から始めた認定制度。2024年度までに全国で53件が認定され、長野県内の認定数は6件と全国最多となっています。そのうちの3件が木曾地域にあります。

長野県内の「林業遺産」一覧

2013年度

- 木曾 旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林
- 木曾 木曾森林鉄道(遺産群)

2016年度

- 長野 木曾式伐木運材図会

2017年度

- 木曾 旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群
- 南信州 遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群
- 上伊那 進徳の森と中村弥六の関連資料群

知みんなる? 木曾五木 (きそごぼく)

資料/林野庁 中部森林管理局

1 ヒノキ

木曾のヒノキは、日本の木材の中で最も優秀なもの一つとされます。材は密で香りと光沢があり、とても堅く、腐朽にもよく耐えます。

2 サワラ

日陰に強く、沢地などでも幹を直立させよく育ちます。水気に強いので、家具や建具のほか、桶の材料になります。

3 ネズコ

富山県の黒部渓谷に多いことから、「クロベ」という別名もあります。木材には独特の香りがあり、黒褐色の光沢があります。建具や下駄などに使われます。

4 アスナロ

別名ヒバ。日陰にとっても強く、よく生長します。木材は水に強く、船の材料などに使われます。名前の由来は「明日ヒノキになろう」というところから。

5 コウヤマキ

和歌山県の高野山によく見られるのが名前の由来。一属一種で、日本特産の樹木です。木材は水に強く、船や桶などに使われます。

信州木曾 林業の歴史を学ぼう



「林野庁中部森林管理局所蔵」
木曾式伐木運材図会・上巻5一元伐之図

信州・木曾地域の 林業の歴史を 辿ってみませんか

「木曾路はすべて山の中である」—
文豪・島崎藤村の小説「夜明け前」の冒頭の有名な一節です。
長野県の南西部に位置し、
中央アルプスと御嶽山系に挟まれた木曾地域は、
ヒノキをはじめとした美しい森林に覆われた山々に囲まれ、
面積の9割以上を森林が占めています。
この地域では、豊かな森林資源を活かして、
古くから林業が盛んに行われてきました。
今も、かつてこの地域で行われてきた林業の姿を垣間見ることのできる資料が各地に残っています。
このリーフレットを片手に、そんな場所を巡って、
木曾の林業の歴史や昔の人々の暮らしに想いをはせてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ

長野県木曾地域振興局林務課
☎0264-25-2224
発行 2026年3月 改訂



1 木曾山林資料館 (旧木曾山林高等学校)



- 明治34年に我が国初の林業科をもつ実業学校として誕生した「木曾山林学校」。大正元年の校舍移転新築の際に設けられた「林業標本室」が100年以上にわたって受け継がれ現在に至る。
- 明治から現代まで生徒が使用した林業関係の教科書、ドイツ林学の原書、生徒が残したノート、学校や校友会の刊行物、実習に用いた測量器械や測樹用具、国産材・外材の木材標本（材鑑）等、3000点を越える膨大な資料を所蔵。その他林業史を中心とした蔵書も2000冊を越える。
- 所蔵する「林業教育資料」と、資料館の目の前に広がる約58haの「演習林」は、2014年3月に「林業遺産」認定。



2 御料館 (旧皇室林野局木曾支局庁舎)



- 木曾谷最大の西洋建築を昭和2年建設当時の図面をもとに復元改修。三方にアーチを持つ玄関の車寄せと屋根中央部にある八角形の塔屋が特徴的な、シンメトリーの美しい建物で、アールデコの意匠もみられる。
- 御料林時代を紹介するパネルや、貴重な林野行政の史料を展示。明治14年の第二回国内勲業博覧会に出品された「木曾谷模型」や動植物の標本も数多く収蔵。
- 2012年11月に木曾町有形文化財に指定。
- 2018年3月に「林業遺産」認定。



3 赤沢自然休養林森林資料館・森林鉄道記念館

- 日本三大美林の一つ樹齢約300年の木曾ヒノキを見学でき、「森林浴発祥の地」とも知られ、貴重な温帯性針葉樹林として「木曾悠久の森」と呼称され保護されている。
- 森林資料館では、江戸時代の運材方法である「流送」の資料や伊勢神宮式年遷宮用の木材を切り出す「御杣始祭」の資料を展示。
- 鉄道記念館には「ボールドウィン蒸気機関車」など林鉄の資料、赤沢自然休養林内には流送時代の「床堰」が見られ、木曾谷で行われた当時の林業を知ることができる。



木曾地域

林業の歴史 散策マップ



4 大桑村歴史民俗資料館

- 村内から切り出した木材を用いて、伝統的な小屋組技法で築造。
- ひときわ目を引くのが、展示室ホールの高い天井を支える5本の大きな柱。「木曾五木」が1本ずつ使われており、木肌の違いを見て触れて感じることができる。
- かつて使用されていた山仕事の道具類のほか、玄関ホールには樹齢約300年の歴史を語る木曾ヒノキの切り株を展示。



5 南木曾町博物館歴史資料館

- 重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿内にあり、重要文化財指定の「脇本陣奥谷」、復元した妻籠宿本陣と共に南木曾町博物館を構成。
 - 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
 - 博物館分館の「田立民俗資料館」には、住民から提供された山仕事の道具類も多数展示*。
- *見学は南木曾町教育委員会（電話0264-57-3335）へ要問合せ



6 山の歴史館

- 御料局が山林を管理するため明治33年に妻籠宿本陣跡地に建てた洋風建築を移築復元。平成18年に県指定。
- 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
- 島崎藤村の兄で妻籠本陣の当主広助が関わった「御料林事件」についても解説。
- 敷地内には、かつて森林鉄道を走った機関車も置かれている。



林業や木の教育・人材育成を行っている機関

木曾森林鉄道 (遺産群)

木曾森林鉄道は、大正初期から昭和40年代にかけて、木曾地方で運用されていた森林鉄道の総称。木曾ヒノキ等の木材搬出に用いられ、歴史と規模の大きさ等から国内の森林鉄道の代表的存在だった。木曾地方では多くの鉄道施設跡を見ることができる。

2014年3月に「林業遺産」認定。

